

K-566

米沢市埋蔵文化財調査報告書第72集

遺跡詳細分布調査報告書

第13集

別冊

横山古墳



横山古墳出土器台

2000

米沢市教育委員会

遺跡詳細分布調査報告書

第13集

別冊

横山古墳

2000

米沢市教育委員会

序 文

この報告書は、米沢市教育委員会が平成11年度に文化庁の補助を受けて実施した「遺跡詳細分布調査」のうち、重要な成果が得られた横山古墳について、特に別冊としてまとめたものです。

横山古墳は、当初、木和田塚bと登録され、中性の塚と考えられていましたが、調査を進めてゆくに従って全長13mの方墳であることが判明しました。

古墳からは、3基の墓壙跡と古墳に供えられた土器の埴・器台・高坏等5点の他に、墓壙内からも副葬されたとみられる管玉1点が検出されています。出土した土師器は、いずれも4世紀の中頃のものとみられることから、県内最古の古墳となるものです。

米沢盆地内には、米沢市の寶領塚古墳や成島2号墳、川西町の天神森古墳、南陽市の稻荷森古墳などの大型の前期古墳が隣接する特異な地域でもあります。これらの大型の前方後円墳や前方後方墳は大和政権の影響を受けながら、地域一帯を統括していた首長墓と考えられていますが、古墳の出現する時期や詳しい背景に関しては課題となっていました。

今回の横山古墳の発見は、少なくとも大型古墳が出現する以前の段階においても小規模な古墳の築造が行われていたことを示すものであり、米沢盆地における古墳文化の開始を探る上で極めて重要な資料となるものです。

今後は、より詳しい調査を進めながら、地域の遺跡の解明に尽力していく所存です。

最後になりましたが、この調査にあたりご指導、ご協力を賜りました文化庁、山形県教育庁文化財課をはじめ、地権者の安倍慶夫氏、岸正順氏、加藤又八氏に対し、衷心より感謝申し上げます。

平成12年3月

米沢市教育委員会

教育長 佐藤政一



例　　言

1. 本報告書は、文化庁の国庫補助を受けて実施した、平成11年度の埋蔵文化財調査報告書第69集（遺跡詳細分布調査報告書第13集別冊）であり、米沢市埋蔵文化財調査報告書第72集である。

2. 調査は米沢市教育委員会が実施した。

3. 調査体制は下記の通りである。

調査主体　米沢市教育委員会

調査総括　小杉 基（文化課長）

調査担当　手塚 孝（文化課文化財係主任）

調査主任　菊地政信（文化課文化財係主任）

調査補助員　長澤由紀

事務局長　小林伸一（文化課長補佐）

事務局　岡本善彦（文化課文化財係長）

渡辺紘子（文化課文化財主査）

月山隆弘（文化課文化財主任）

調査指導　文化庁、山形県教育庁文化財課

調査協力　安倍慶夫 岸 正順 加藤又八 地元 竹井・木和田地区

調査参加者　安倍慶夫 遠藤富男 近野慶子 今野周蔵 佐藤四郎 高橋信子

4. 掃図の縮尺は各図にスケールで示した。掃図内の記号はO Y—墓壙、Mは墓丘を表す。遺物はA Z—土器、B Z—石器である。写真図版の縮尺は不同である。

5. 出土遺物は米沢市埋蔵文化財資料室（米沢市万世町桑山269-3）に一括保管してある。

6. 本書の作成は手塚 孝、菊地政信、長澤由紀がおこない、全体については手塚が総括した。
編集は菊地が担当した。

本文目次

序文 例言

第Ⅰ節 横山古墳の調査	1
1 遺跡の概要	1
2 調査の経過	3
3 調査の成果	3
○ A トレンチ	3
○ B トレンチ	5
○ C トレンチ	5
○ D トレンチ	5
○ E トレンチ	5
○ F トレンチ	5
○ G トレンチ	5
○ H トレンチ	5
○ I トレンチ	5
○ J トレンチ	7
○ K トレンチ	7
4 古墳の形態	7
5 古墳の構造	7
6 埋葬施設	9
1号墓壙	9
2号墓壙	9
3号墓壙	9
7 M 2号墳	9
8 検出された遺物	13
第Ⅱ節 考察	16
1 前期古墳の成立と横山古墳の年代	16
2 米沢盆地における古墳の変容と年代	17
3 米沢市における古墳分布と主要古墳	20
4 要約	28
参考文献	29
報告書抄録	

挿 図 目 次

第1図	横山古墳M1、M2号墳位置図	1
第2図	米沢市内の古墳分布図	2
第3図	横山古墳現況測量図	4
第4図	横山古墳M1、M2号墳トレンチ配置図	6
第5図	横山古墳M1号墳セクション図（1）	8
第6図	横山古墳M1号墳セクション図（2）	10
第7図	横山古墳M1号墳主体部平面図	11
第8図	横山古墳M2号墳トレンチ配置図	12
第9図	横山古墳M1号墳出土遺物実測図（1）	14
第10図	横山古墳M1号墳出土遺物実測図（2）	15
第11図	米沢市前期・中期古墳分布図（1）	19
第12図	米沢市後期・終末期古墳分布図（2）	21
第13図	戸塚山古墳全体図	23
第14図	山形県の前期・中期古墳分布図	27

付 表 目 次

第1表	米沢盆地古墳編年表	24
第2表	米沢市内の古墳一覧表	25

図 版 目 次

図版1	横山古墳の主体部発掘風景	10
図版2	横山古墳トレンチ掘り下げ状況	11
図版3	横山古墳主体部セクションベルト取りはずし状況	12
図版4	横山古墳主体部近景	14
図版5	横山古墳出土復元古式土師器・管玉・繩文土器	10
図版6	横山古墳復元古式土師器(器台)	11
図版7	横山古墳復元古式土師器(高壇・器台)	12



第Ⅰ節 横山古墳の調査

1. 遺跡の概要

遺跡は、米沢市街地から北東4kmに位置する八幡原工業団地の北西部に分布する。梓山地内から連なる丘陵の先端部に構築された古墳である。

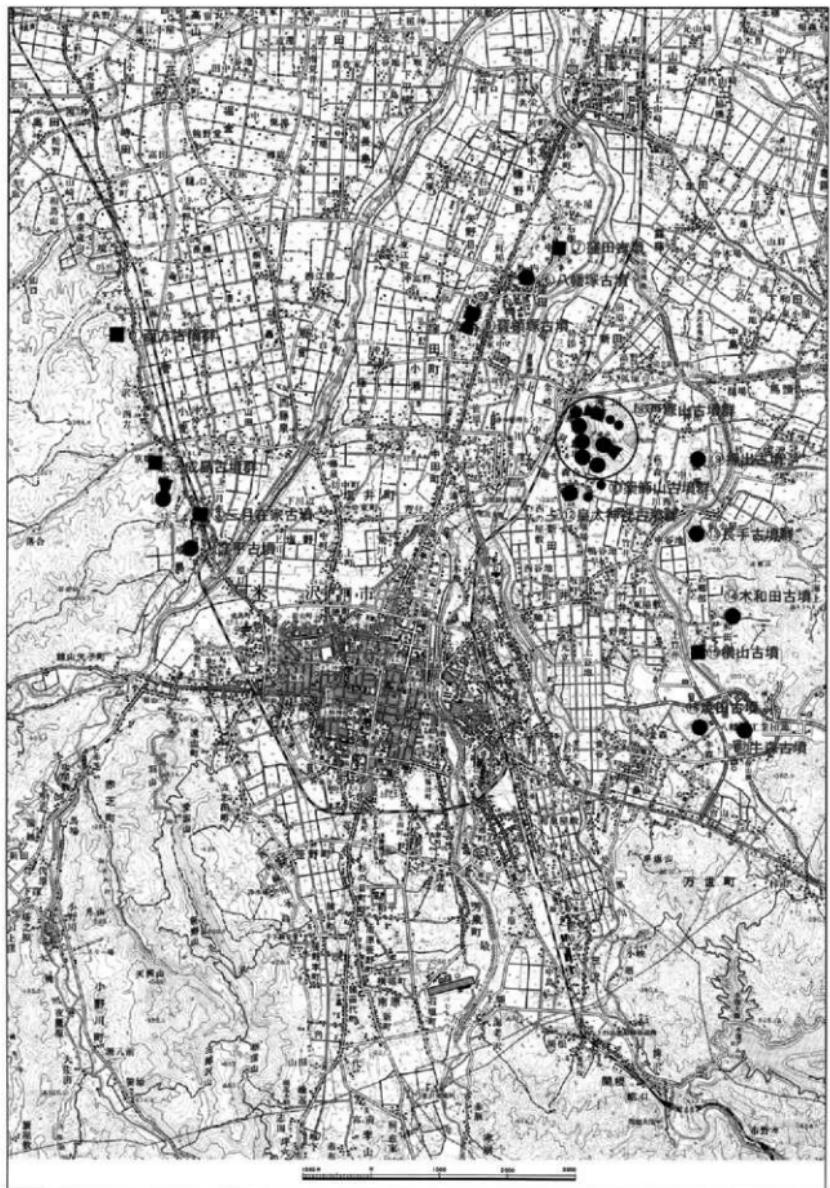
古墳は、八幡原ヘリポート敷地の北方約500mの通称「寺山」と称される尾根の頂上付近にあたり、標高275mを測る。古墳の南側には福島県境に位置する標高1217mの栗子山を源もととする梓川（天王川）が北流し、平地と丘陵の比高差は28mを有する。

また、東側直下の山麓には単郭式の平城となる木和田館跡（第1図参照）、さらに北側の山麓に沿って木和田古墳、木和田窯跡、木和田中屋敷館、木和田月ノ原館等の古墳時代終末期から中世期の館跡の遺跡群が分布している。これらの遺跡群の中で、木和田窯跡、木和田古墳について調査を実施している。前者の窯跡は8世紀前葉で県内でも最古クラスに位置する。遺構を保護するための建物が建造されている。さらに、木和田館跡についても一部調査を実施している。平安末期の館跡と判明しており、注目される遺跡である。

平成9年度の米沢市遺跡地図によると古墳は、木和田塚bと登録されている。しかし、今回の調査結果から古墳と判明したことから、字名をとって横山古墳と改名した。当初は先述した木和田館跡に関連する塚と考えられていた。今回の調査は、このような状況の中で塚と館跡の関連性を解明する目的で確認調査を実施したものである。



第1図 横山古墳M1号・M2号墳位置図



第2図 米沢市内の古墳分布図

2. 調査の経過

古墳の立地する範囲は、字切図で確認すると尾根の西側が竹井地区、東側が木和田地区と尾根境に異なっており、所有者が複数に及ぶことが判明した。関係者に調査内容の趣旨を説明したところ快く承諾していただき、7月1日から調査を開始する。

まず、地形測量をするための立木の伐採を実施し、この作業に丸一日を必要とした。伐採は最小限の範囲に留め、次に測量のための基準杭を設置した。各基準杭に標高を明記した。幸いにも三角点が近くの頂上にあったことから、容易に作業が進行した。

測量には三日間を要した。コンタは20cmで統一し、縮尺は40分の1の測量図面を作成することができた。7月7日からは、拡張区及び各トレンチA～Jを配して、古墳の下場確認、主体部、盛土の状況を把握するための面整理と精査を行う。

この段階で表土約10cmから土師器片がまとまって出土した。吟味の結果、4世紀中葉期の器台の破片であることが判明し、前期古墳の可能性が強いと想定されるに至った。

トレンチは南方からA～Jを配し、地山まで掘り下げる。一方、拡張区は中央部にセクションベルトを南方に残して、段階的に掘り下げ、主体部のプラン確認を集中的に実施した。ようやく表土から35cm掘り下げたところで、旧表土を掘り下げて構築した主体部を確認することができた。

プランは、当初推測した場所と異なって東西に並列した状況で2箇所あり（OY2.3）他、表土5cm地点で確認した北方のOY1の合計3箇所であることが7月19日までに明確になった。

7月21日から主体部の掘り下げを実施し、7月25日にOY2とした主体部から管玉一点が出土した。他に器台破片が數十点出土しているが、すべて破片であった。

7月27日には主体部の形態を明確にするために、サブトレンチを南方に配して掘り下げを実施した。7月30日に現地説明会を実施した。終了後に主体部のセクションベルトを取りはずしを実施し、写真撮影をおこなった。その後は埋め戻し作業に着手した。8月5日までにこの作業を終了した。8月6日には現地からの発掘用具の撤収及びKトレンチとした箇所を精査した。

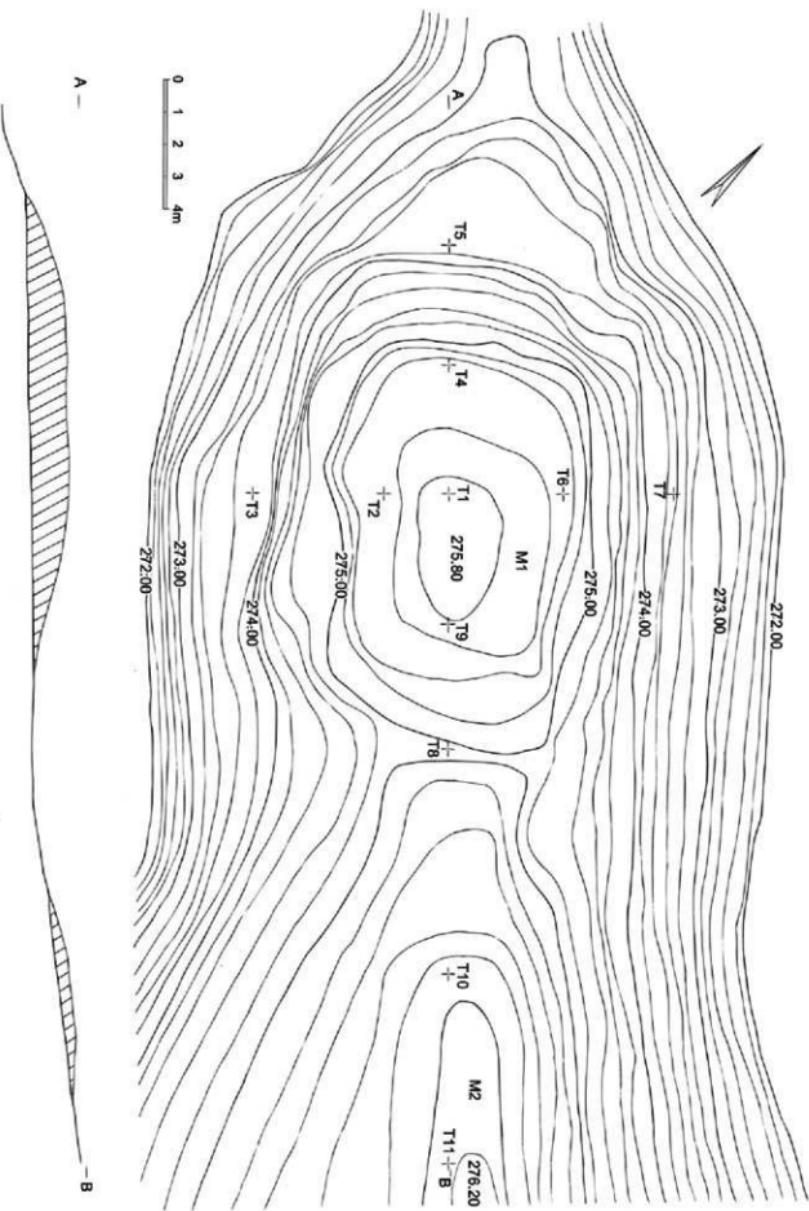
精査の結果、南方箇所に溝跡が確認されたことからこの墳丘も古墳である可能性が強い。従つて、今回報告する墳丘を横山古墳群M1号墳、南方に新たに確認した墳丘を横山古墳群M2号墳と呼ぶことにした。ただし、M2号墳は古墳と確認したわけではないので、M1、M2は説明する際に用いる。横山古墳と呼ぶ場合にはM1号墳のことである。

午前中でM2号墳の精査を終了し、午後から埋め戻した。今回の調査期間は真夏の時期にあたり、暑い日が続いた。雨は多少降った程度で調査を中止しなければならなかつた日は1日だけであった。調査期間は平成11年(1999)7月1日から同年8月6日の延べ37日間であった。なお現場に通じる山道は急斜面をのばるルートをとっているので今後整備が必要である。

3. 調査の結果

○ Aトレンチ [第6図]

墳丘の南方部中央に配した。幅は1m、長さ67mの範囲である。セクション図で示すように



第3図 横山古墳現測量図

中央部に凹部が認められ、人工的に掘られた形態を呈する。Aトレンチ東部からは内黒土師器4点が出土しており、奈良時代に再利用された可能性が認められた。覆土は自然堆積であり墳丘からの流出による。墳丘部にかけての箇所は盛土はかたく、ひきしまっていた。盛土は30~40cmである。尾根を横に削平して土を盛り上げて墳丘を構築した様相を呈している。

○Bトレンチ〔第6図〕

南方の墳丘下場に設置した拡張区でCトレンチとAトレンチをつなぐ調査区の名称である。周溝を確認するため掘り下げたものである。長さ7m、幅は西南で3m、東南で2.2mの範囲である。確認した周溝は幅が一定しない形態で急斜面となる箇所まで延びている覆土からは縄文土器や石器が出土している。土師器類は認められなかった。

○Cトレンチ〔第6図〕

南西斜面に配したものであり、南西コーナー部の確認を目的として配置した。その結果、明確にコーナー部と確認する箇所は認められなかった。

○Dトレンチ〔第6図〕

西南の急斜面に配したものである。盛地は認められず、自然の地形をそのまま墳丘構築時に利用したと推測される。表土の腐植土を取り除くにとどめた。直下に梓川が北流する。

○Eトレンチ〔第5図〕

西北箇所に配したもので、Aトレンチと同様尾根の中央部に位置する。セクション図で示すように深さは最深部で80cm、墳丘に向かうほど浅くなっている、墳丘が尾根に沿って構築されておりAトレンチからEトレンチにかけて、若干傾斜しているので、堆積土が多く流出した結果と考えられる。Aトレンチで確認した明確な凹部は認められなかった。幅80cmのトレンチ範囲からは遺物の出土は認められなかった。

○Fトレンチ〔第5図〕

北東部に位置すトレンチでDトレンチと対応する。他の場所よりも盛地が多く認められた箇所である。最深で60cmの盛土が認められた。盛土には縄文土器が混入していた。Dトレンチ側にくらべるとだらかな斜面である。この地形が盛土作業を用意した結果と解釈したい。この箇所からは須恵器長頸壺片が出土している。

○Gトレンチ〔第5図〕

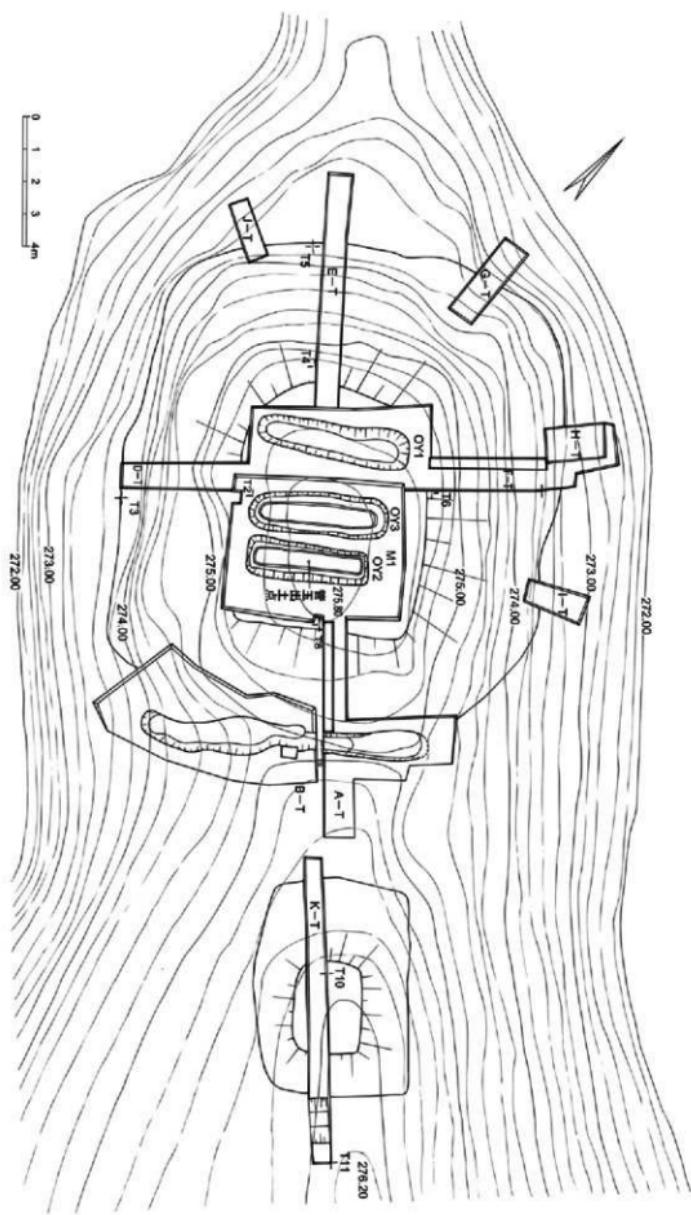
北方箇所の墳丘下場確認を目的としたトレンチであり、図示したセクション状況であった。人工的に掘られた溝を確認することができた。堆積土は自然堆積状況である。遺物は認められなかった。溝は「V」字形の断面形態を有する。墳丘を区画するために構築したと考えられる。

○Hトレンチ〔第5図〕

Fトレンチの下場に大きな立木の切株があり、下場確認が困難なことから新たに設置したものである。Gトレンチと同様な目的で構築された溝跡を確認した。遺物は少破片の土師器が認められた。覆土の最大層は黒褐色が混合するもので、すべてのトレンチで同色の土質を確認している。

○Iトレンチ〔第6図〕

第4図 横山古墳M1、M2号墳トレンチ配置図



調査区の北東に位置し、下場を確認した。墳丘箇所は自然地形を削り出して整形した痕跡を有する。遺物は土師器片が数点出土している。

○ J トレンチ [第5図]

セクション図で示す様にほとんど自然であった。以上が今回配置したトレンチの状況である。結合すると南方部の尾根を削平し、周溝を構築、次いで北東側に盛土をし、方形状の墳丘を整形した様相がうかがえる。

○ K トレンチ [第8図]

M2号墳に配置したトレンチで長さ9.6m、幅60cmの範囲である。南方に幅1.4m、深さ30cmの溝跡を確認することができた。北方箇所には認められなかった。このトレンチの成果からこの塚も古墳との確認が高いことを記しておきたい。遺物は認められなかった。

○ 墳丘上部拡張区 [第7図]

東西11.2m×南北8.2mの範囲であり、主体部を確認した場所である。O Y 1～O Y 3の墓境が認められた。埋め戻すことを前提としているので、調査範囲は最小限にとどめた。詳細は別頁で述べる。

4. 古墳の形態 [第3図]

標高280.20mある頂上から北西約70m下がった地点の尾根に構築された古墳である。盗掘坑等は認められないことから、ほぼ築造当時の形態と推測される。

古墳の規模は下場で南北13.5m、東西13mの方形状を呈する。上場は南北7m、東西5.8mの長方形を呈し、無段構築であり、南方から北東にかけてのゆるやかな斜面に周溝が認められた。幅は60cm～1mを測る。他は削り出しの形態である。高さは1.4mであるが、北東から見た場合には実際の高さよりも大きく高く感じる。表土の土は赤褐色であり、構築時には周囲から目立つ存在であったことがうかがえる。

5. 古墳の構造 [第3図]

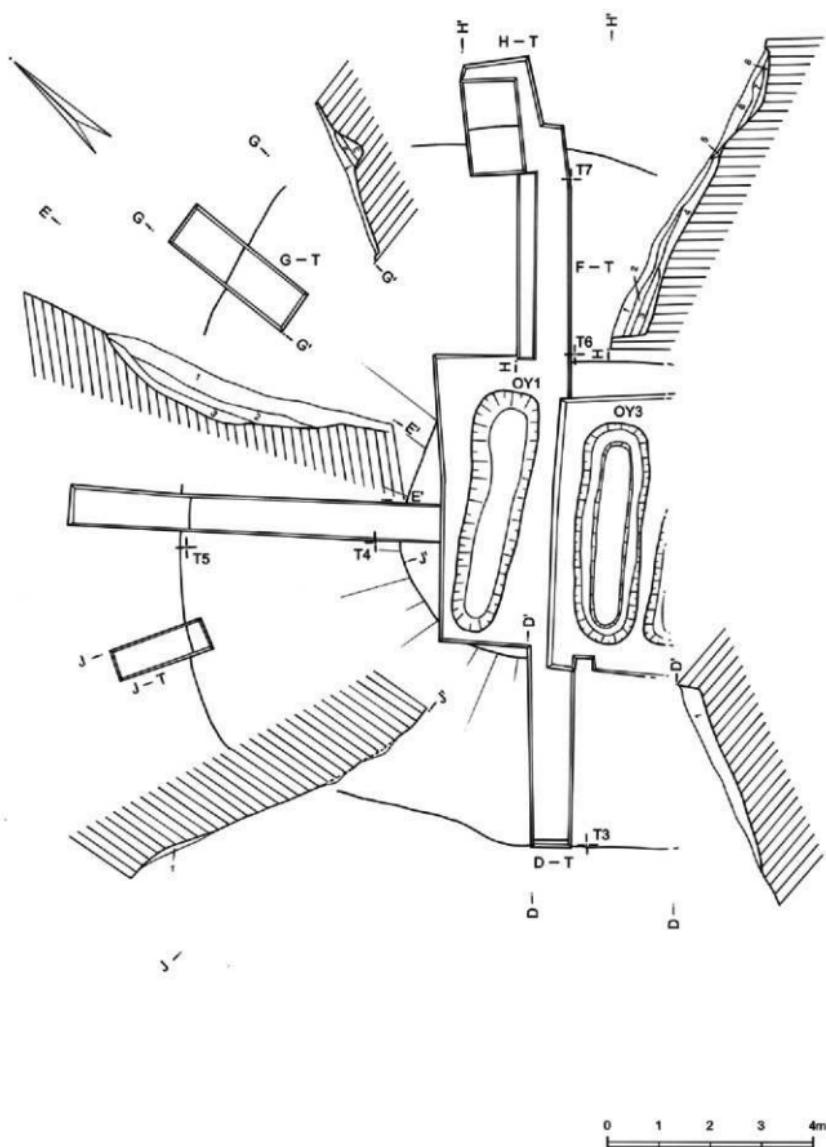
南東から南西に延びる尾根を整地した後に南東部を東に削平して、独立した平坦地を造り出し、その箇所に盛土を施し方形状の墳丘を構築している。旧表土には縄文時代の遺跡があつらしく、盛土に土器や石器が混入していた。

盛土の範囲は尾根が狭い箇所 (H、I、G トレンチ) ほど深く、最深は東方箇所で1mを測る。平均すれば30cmであり、表土には赤褐色の土を選出して使用している。各トレンチのセクションからは明確な版築層は確認されなかった。

主体部は3箇所認められ、発見順に番号をつけた。1号墓墳はO Y 1と図示した箇所であり墳丘を整地した後に堀り込んでおり、最も新しい土壌である。O Y 2、O Y 3とした箇所が2号及び3号墓墳で、埋葬後に墳丘を整形している。

両者の重複関係は認められず、同時に埋葬したと考えられる。

周溝は南方箇所から東方にかけて確認された。他は削り出して墳丘を整形している。特に東



第5図 横山古墳M1号墳セクション図 (1)

側は顯著であり、平坦地を造り出している。

6. 埋葬施設〔第7図〕

北側の1号墓壙、南側の2号墓壙、中央に存在する3号墓壙の3基が検出されている。遺物として、約70点の古式土師器片が墓壙の存在する墳丘の上部近くからまとまって検出している。

復元できできたのは5点、他に3個体分位の破片がある。器形は器台3点、言坏1点、堵1点について復元することができた。

これらは特に、2号墓壙と3号墓壙の東よりに一括して確認されていることは、埋葬した後に供えられたものと推測される。

〈1号墓壙〉 O Y 1

墳上の上部より掘り込んでいるもので、追葬したものと考えられる。主軸がN-62°-Eを有する梢円形プランの墓壙で、長さ4.7m、幅は東方で広く1.3m、西方で85cmをなす。平面からの埋葬形態については、確認できなかったが、断面の状況を考慮すれば木棺直葬と推測される。

遺物としては、古式土師器の堵とみられる破片3点以外は認められなかった。

〈2号墓壙〉 O Y 2

地山面から掘り込んで構築している。長さ3.9m、幅は東西とも1.1mのほぼ長方形プランを示す。主軸方向はN-52°-Eをなし、墓壙内部に幅55cm、長さ3.3mの木棺直葬の痕跡が確認された。底面は、平坦で堅く突き固められている。

掘り込み面から墓壙底部までは32cmを測る。遺物は、蛇紋岩製の管玉1点が図面で示した箇所から出土している。第6図のスクリントーンのドットで示した箇所は木棺の痕跡を示すものである。

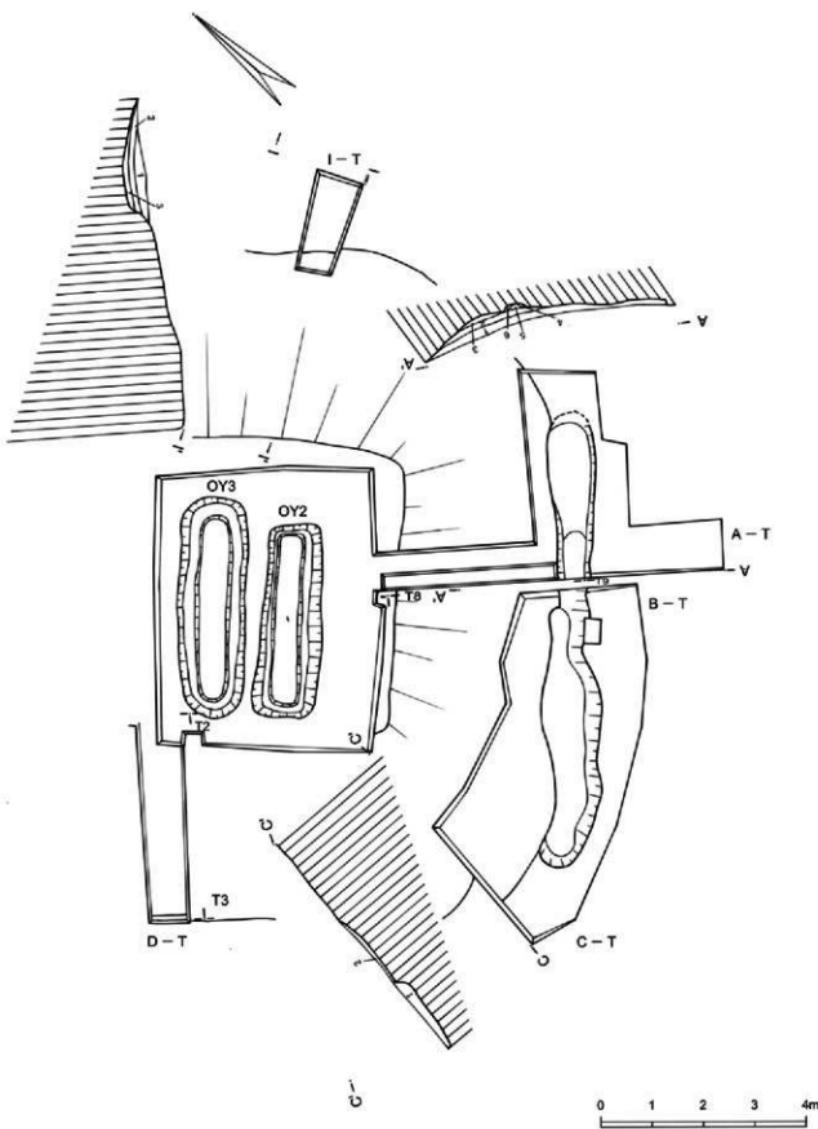
〈3号墓壙〉 O Y 3

2号墓壙に隣接して確認されたもので、地山面から掘り込んで構築している。主軸方向はN-52°-Eで長さ4.2m、幅1.3mのほぼ長方形プランを呈する。墓壙内部には、幅60cm、長さ3.6mの箱形の木棺の痕跡が認められる。底面は2号墓壙と同様に平坦で堅く突き固められているのが特徴である。掘り込み面から墓壙底部までは33cmを測る。遺物は土師器片点以外は認められなかった。

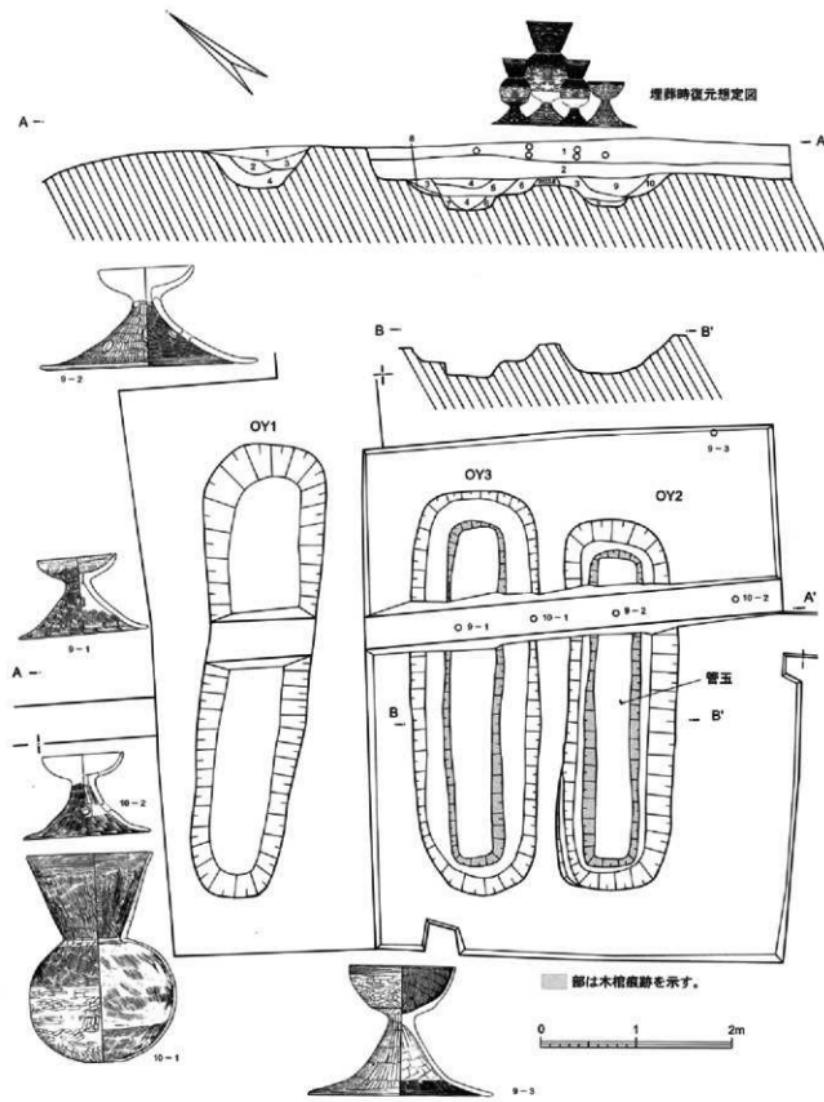
7. M 2号墳〔第8図〕

今回調査を実施したM 1号墳の南方に隣接する墳丘である。長径は南北で6.8m、短径は東西で4.8mを測る方形形状を呈する。Kトレンチを配して墳丘の腐植土を除去しただけの確認調査であり、図示したセクション図の墳丘部分については、現況の断面形態である。南方に確認した周溝の覆土はM 1号墳周溝覆土と同様な色調であった。

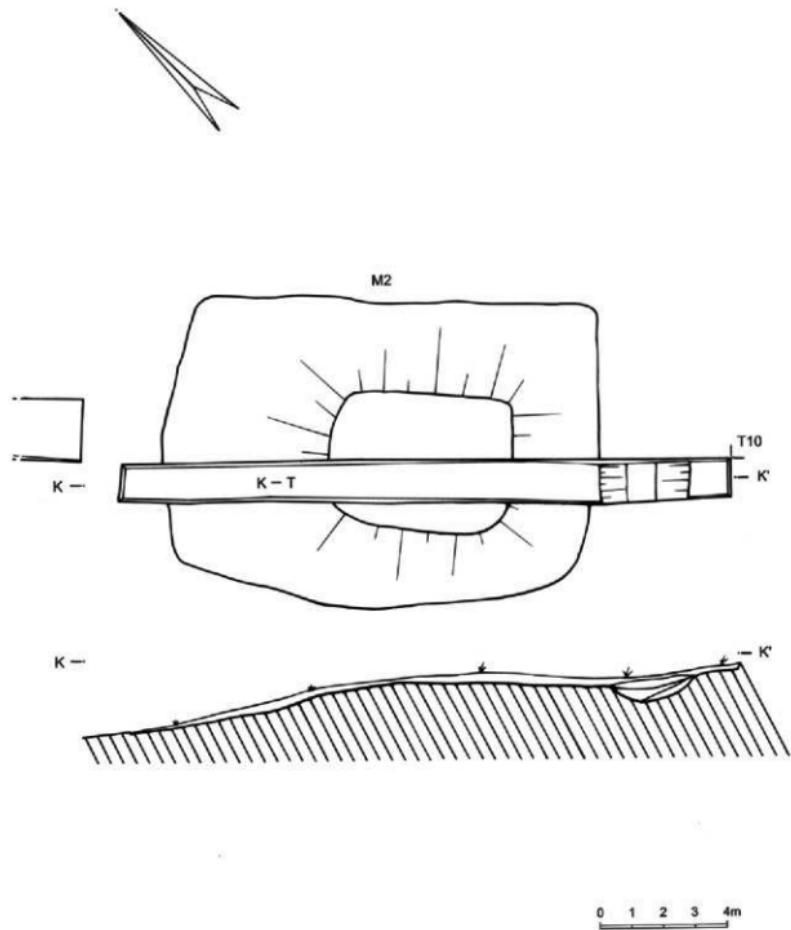
三角点がある頂上は平坦であり、遺構の存在が期待できる。M 2号墳とともに今後の調査が期待される。また、北方箇所にも塚が存在し、墳丘形態から同様な時期が予想され、合計3基が横山古墳群となる可能性が強い。



第6図 横山古墳M1号墳セクション図 (2)



第7図 横山古墳M1号墳主体部平面図



第8図 横山古墳M2号墳トレチ配置図

8. 検出された遺物

今回の調査で検出された遺物は、墳丘の直上と古墳構築の際に盛土した土砂に含まれるもののが大半で、墓壙からは管玉 1 点のみであった。ここでは、古墳時代の土師器を中心に説明を加える。

1) 繩文時代の遺物「第 5 図版」

23 点の土器類と石錐 1 点、剥片 24 点の石器類に 1 点の凹石が認められている。土器は全て破片であり、3 本の直前多条の原体を回転施文した斜縄文を中心としている。他には、口縁部に「X」字状のブリッヂと縦位の帯状を特徴とした口縁部突起の左右に粘土紐を山形と 2cm ほど縦位に貼付した粘土紐を横位に連続施文するものも含まれている。これらは、縄文前期未葉期の大木 6 式に併行するものである。

2) 土師器「第 9 図 1・2、第 10 図 1~3」

出土した土師器の多くは、O Y 2 と O Y 3 号墓壙の東端に寄った直上にまとめて検出されている。この中で復元可能だったのが、器台 3 点・高環 1 点・壺 1 点の計 5 点で、他に器台と推測される土師器片 73 点、壺の破片 16 点、変形土器もしくは壺形土器の破片 2 点が認められている。復元図化した 5 点について述べる。

土師器壺「第 9 図 1」

復元器高が 22cm、口径 13.2cm、底部 3.8cm の大型の壺である。口縁部から頸部にかけて斜めに垂下し、胴部がほぼ球形を示すを特徴とする。調整は、頸部の外面をナデ調整を加えた後に縦位に口縁部を除く全面にハケメを多様し、仕上げとして頸部から口縁部に向けてミガキを加えている。内面も基本的に同じであり、ナデ後に横位のハケメ、そして部分的に縦位のミガキで調整している。

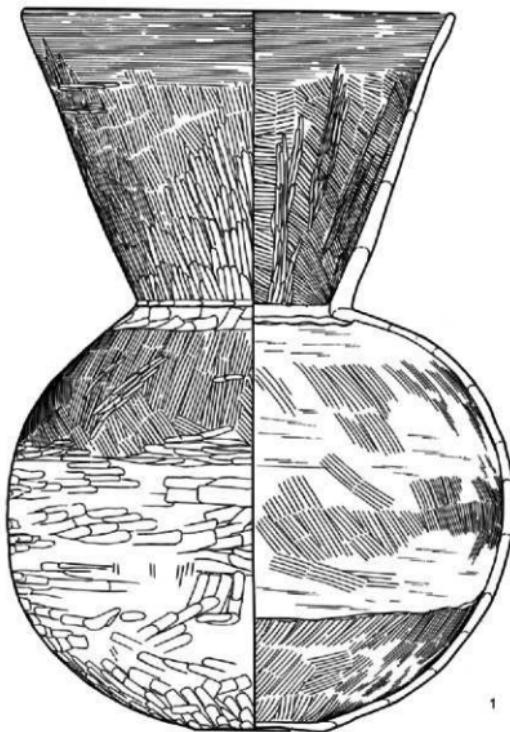
一方、胴部から底部は、外面を縦位から横位のハケメを全体に施した後に胴上部のハケメを残しながら下半部を横位と斜位によるミガキを加えてハケメを消すのを特徴としている。内部の調整は、ハケメ調整を基本としたもので、下胴部から底部は縦位に胴上部は斜めに行っている。胴部が発達している割には、頸部の開きが斜めとハケメを意図的に残す特徴から塩釜式の I 段階の新しい時期とみられる。

土師器器台「第 9 図 2、第 10 図 1・2」

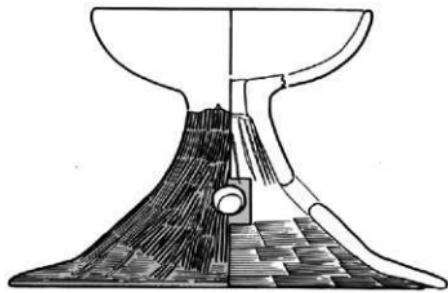
外面の全体に第二酸化鉄を意図的に施して焼成したものとみられ、全体が赤茶褐色を呈した比較的短身の器台である。3 点出土した器台のうち 2 点の壊部が欠損しているが、器形から A 類と B 類に分けることができる。

最初の A 類は、浅い皿状の壊部を呈しているのが特徴で、脚部が斜めに開くよう付く。脚部と壊の中央に貫通孔を有し、脚部にも 3 単位の穿孔をもつ。調整は外面にハケメ調整を示すのを特徴とし、後に部分的にミガキを加えて最後に口縁部と脚外側にナデで仕上げる。一方、内面の壊部はナデ、脚部は第 10 図 2 が、脚片部をヘラナデで仕上げているのに対し、第 10 図 1 の器台は横位と斜位のハケメ調整を施すのが特徴となる。

次に B 類の器台は、壊部が失われたもので、低い器高が外側に大きく開くのを特徴としている。



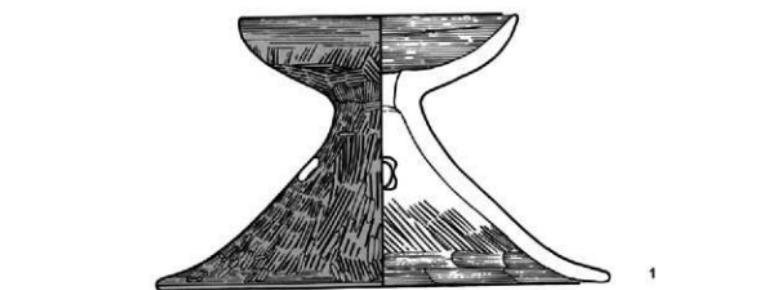
1



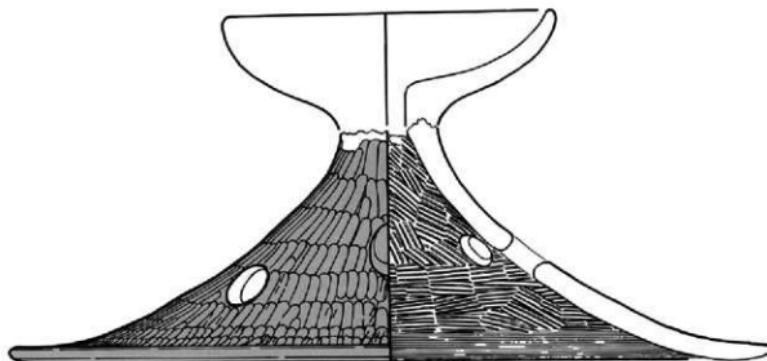
2



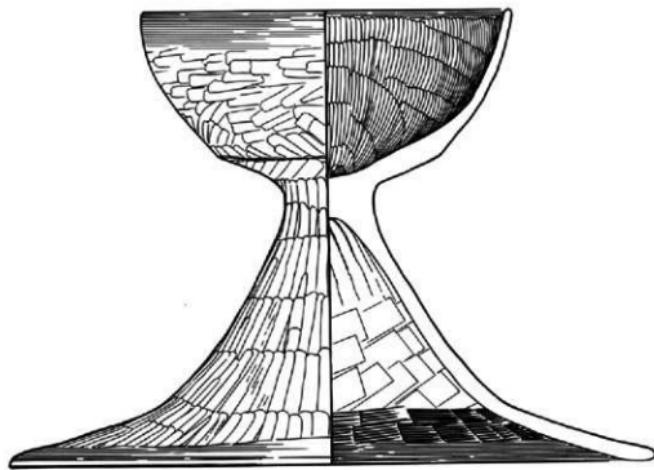
第9図 横山古墳M1号墳出土遺物実測図(1)



1



2



3

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10cm

第10図 横山古墳M1号墳出土遺物実測図(2)

る。脚部の穿孔は、6箇所を上下に交差するように設置したことにより、3単位の有孔が連続して存在するように構成している。脚部の調整としては、外面を縦位のハケメ調整を配してから全面を縦位のミガキを丁重に加えて消している。内面は、内部は脚上部を斜位によるハケメ調整、下半部を横位のハケメとナデで施している。

土師器高坏「第10図-3」

やや内傾気味を示す椀状の坏部に斜めに垂下する脚部が据部で外反するのを特徴とする。調整手法は、外面の坏部を横位から斜位に施したミガキ及びヘラ調整を加え、口縁部を横ナデで仕上げている。内面調整は、細い棒状工具で丁重にミガキを施すのが特徴となる。

脚部は、先のB類の器台と同様に縦位のハケメ調整の後に縦位のヘラミガキを縦位に連続してある。内部調整は、内部は脚上部を斜位によるヘラ調整、下半部を横位のハケメとナデで仕上げている。

3) 管玉「第5図版」

O Y 2 の墓壙中央の底面より検出したものである。長さが2.8cm、幅が0.45cmをなす管玉であり、中央からやや斜めに直径0.24cmの穿孔が開けられている。そのため穿孔口の一部が破損面が認められる。石材は暗緑黒色の蛇紋岩製で新潟県糸魚川産とみられる。

第二節 考 察

1. 前期古墳の成立と横山古墳の年代

米沢市で確認されている前期古墳と推測される古墳は、横山古墳を含めた7古墳群14基と古墳発生等に関するとみられる方形周溝墓が検出された4遺跡が現在までに確認されている。

この中には、周辺地域の大半を統括し、最も優位に立った首長墓と考えるのが寶領塚古墳と成島2号墳の大型古墳である。前者は全長80mの前方後方墳、後者は全長60mの前方後円墳であり、両者とも山形県を代表する4世紀段階の古墳である。

また、米沢地区外の米沢盆地全体の視野でみれば、川西町の天神森古墳（前方後方墳・全長75m）、南陽市の稻荷森古墳（前方後円墳・全長96m）も4世紀段階の首長墓となる。これらの首長墓は、最近の調査と出土土器の分析から、各地域で独自に発展成立した首長級の古墳と考えられ、米沢盆地の支配区分を明確に表示していると捉えられている。

ただし、畿内を中心に絶大な勢力拠点を有する所謂「大和政権」との関連性が問題となる。平成9年に山辺町で確認された天神大塚古墳は、4世紀後半の畿内型円筒埴輪を有する2段構築の円墳と判明し、大和政権の勢力拡大を進めていた東北遠征部隊の責任者の墓の可能性を示唆する一方、大和政権に同盟服属した有力首長墓の可能性も指摘されている。

このように、大和政権下で進められていた東西統一における侵略手法や米沢盆地の有力支配層の動向が気になるところである。

さて、米沢盆地における古墳の発生と成立について考えてみる。現在、最も古いとされるのが比丘尼平遺跡から検出された方形周溝墓で、方形周溝墓3基・竪穴住居後1棟・土壙6基が

検出されている。遺物は、東海地方のバレス型土器に類似した口縁部特徴をもつ壺型土器や壺型土器、二重口縁を有する壺型土器、頸部に凹線をもちハケメ調整を主体とする埴、二段口縁を示した器台等、県内でも最古級の4世紀前半代の土師器類が出土している。同じく大清水遺跡の方形周溝墓群内からは、関東地方から搬入したとみられる台付壺が検出しており、これも4世紀中葉を降らない時期といえる。

横山古墳の土師器は、器台・埴・高坏の3機種がみられる。基本となる調整は、ハケメで施しているが、その後ミガキを加えて仕上げるのが特徴となる。器台は、脚部が斜に下降するA類と外側に大きく開くB類とに分けられるが、完全にハケメを消す手法までは発達していないことからみると4世紀の中葉前後の時期が与えられる。A類に属する器台に関しては、現在のところ県内では確認されておらず、福島県会津群板下町の杵ガ森古墳出土の器台に類似している。この次の段階の時期にあたるのが大清水遺跡竪穴住居跡の一括土器で、長頭の二重口縁壺形土器や壺・高坏・埴などが認められ、塩釜式の新しい段階の仲間と考えられる。同様な土師器としては、川西町の天神森古墳出土の底部穿孔土器・同古墳出土高坏・南陽市蒲生田古墳群の長頭壺形土器・同稻荷森古墳出土の器台があり、概ね4世紀の後半から末に求められる。

5世紀代の詳細に関しては省略するが、5世紀の前半～中葉段階を代表する土師器としては、八幡堂遺跡の方形周溝墓・大清水遺跡の竪穴住居跡群一括土器、二タ俣A遺跡の竪穴住居跡群一括土器が検出されている。5世紀後半段階に位置するものとして、上浅川方形周溝墓と八幡塚古墳から出土している。

以下、6世紀以降は省略。

2. 米沢盆地における古墳の変容と年代

既に述べているように横山古墳は、現時点での最古の古墳となる。平成9年に山辺大塚古墳において、県内最古の埴輪を有する古墳を発見し、新たな県内の古墳文化を見直す時期にきているといつても過言ではない。横山古墳は、当初中世の塚と推測していただけに、これまでの丘陵に分布する中世墳墓並びに塚群と認知している遺跡の再検討をする時期にきている。

一方、古墳と登録している大半の古墳についても同様で、古墳の有無も含めて総合的に精査すべきである。特に、南陽市に分布する多くの古墳群に関しては、早急な調査が望まれる。

第14図に示した古墳分布図は、県内の前期古墳と中期古墳に属するものと推測される古墳を図示したものである。米沢盆地をみると、南端の横山古墳から北端の河井山古墳までの範囲がほぼ20kmの範囲に集約される。また、山形盆地の古墳分布に際しても、南端の土矢倉古墳から北端の山辺町坊主窪古墳群までが同様に20kmの範囲に加わっている。

これらは、偶然の一致を考えることもあるが、県内における古墳文化の発展と山形盆地と米沢盆地の古墳成立がしばしば比較検討されてきた。しかし、山辺大塚古墳の発見によって、山形盆地と米沢盆地の古墳成立は少なくともかなり近い時期に導入された可能性も指摘され、今後の調査研究にかかる責務は大きいものといえる。

以上のことを加味し、米沢盆地における古墳の発生から古墳終焉までの変遷を現段階の推測

や希望も含めた課題を提起する前提で第1表に示した。ここでは、推測される可能性を簡単に整理しておくこととする。

第1段階（4世紀前半）「準備段階の時期」

- ・比丘尼方形周溝墓(米沢市) ・大清水方形周溝墓(米沢市)

第2段階（4世紀中葉）「古墳発生期」

- ・横山1号、2号墳(米沢市) ・経塚山古墳群(南陽市) ・龍樹山古墳群(南陽市)など

第3段階（4世紀中葉～後半）「成立期（首長墓出現期）」

- ・寶領塚古墳(米沢市) ・成島2号墳(米沢市) ・戸塚山195号墳(米沢市) ・天神森古墳(川西町)
・雁境古墳(川西町) ・稻荷森古墳(南陽市) ・蒲生田古墳群(南陽市) ・経塚山古墳群(南陽市)
・龍樹山古墳群(南陽市)など

第4段階（5世紀前半）「古墳発展期」

- ・戸塚山182号墳(米沢市) ・戸塚山140号墳(米沢市) ・成島1号墳(米沢市) ・三月在家古墳(米沢市)
・下小松61号墳(川西町) ・下小松98号墳(川西町) ・経塚山古墳群(南陽市) ・龍樹山古墳群(南陽市)
など

第5段階（5世紀後半）「古墳定着の時期」

- ・戸塚山139号墳(米沢市) ・戸塚山137号墳(米沢市) ・窪平古墳(米沢市)
・西方古墳群(米沢市) ・下小松古墳群(川西町)など

第6段階（6世紀代）「古墳分散期」

- ・戸塚山138号墳(米沢市) ・戸塚山181号墳(米沢市) ・戸塚山34号墳(米沢市) ・戸塚山180号墳(米沢市)
・戸塚山178号墳(米沢市) ・窪田古墳(米沢市) ・河合山古墳群(長井市) ・下小松古墳群(川西町)
・松沢1号、2号墳(南陽市)など

第7段階（7世紀代）「横穴古墳成立期」

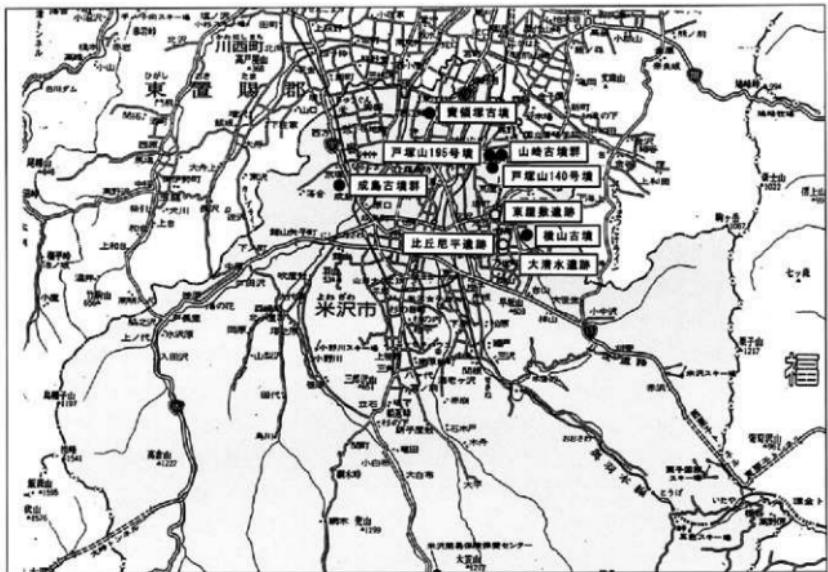
- ・戸塚山189号墳(米沢市) ・戸塚山179号墳(米沢市) ・戸塚山74号墳(米沢市) ・戸塚山43号墳(米沢市)
・戸塚山59号墳(米沢市) ・長手古墳群(米沢市) ・天神裏古墳(米沢市) ・木和田古墳(米沢市)
・戸塚山古墳群(米沢市) ・蒲生田1号墳(南陽市) ・二色根1号墳(南陽市) ・安久津古墳群(高畠町)
・金原古墳(高畠町)など

第8段階（8世紀代）「古墳終焉期」

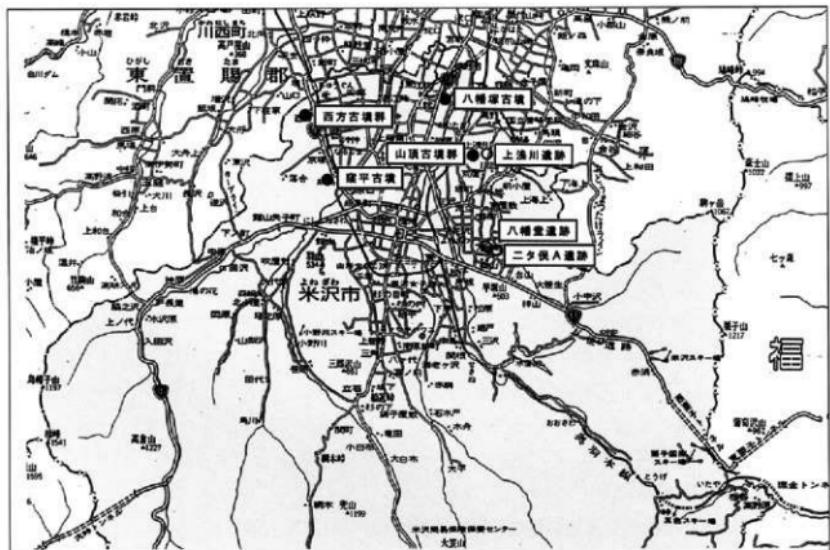
- ・西光寺古墳群(米沢市) ・皇大神社古墳群(米沢市) ・戸塚山古墳群(米沢市)
・牛森古墳(米沢市) ・鳥居町9号墳(高畠町) ・北目1号墳(高畠町)など

以上のような8段階の古墳変容が想定される。特に重要な発生期から成立期について付け加えれば、米沢盆地で出現した4世紀前半段階の墓制としては比丘尼平遺跡や、大清水遺跡でみられるような方形周溝墓が主流であった。4世紀の中葉になると今回の横山古墳のような比較的低い丘陵を選定して構築する小規模も方墳が出現する。同様な構造の古墳群は、米沢市の戸塚山山崎古墳群の一部や成島古墳群、川西町の下小松古墳群(6支群)、南陽市の蒲生田古墳群・経塚山古墳群・龍樹山古墳群の尾根や丘陵に分布している。

この中で調査を実施した蒲生田古墳群と下小松古墳群の支群である雁境古墳はいずれも4世



前期古墳



中期古墳

第11図 米沢市前期・中期古墳分布図（1）

●古墳 ○集落跡

紀後半を指しているが、他の古墳の大半に関しては未調査であることから横山古墳と同様な時期の古墳も存在する可能性が高いとみている。

繰り返すようだが、南陽市宮内地区の丘陵に沿って分布している経塚山古墳群と龍樹山古墳群に関しては発生期段階の古墳が存在する可能性が高く、前期古墳から中期古墳にかけての継続型の群集墳と推測される。

そして、4世紀の後半段階に入ると成島2号墳、寶領塚古墳、稻荷森古墳、天神森古墳等の地域首長墓が次々と出現した。これらの古墳は、僅かな時間的空間の中で成立したものと推測され、主要河川を境界とする支配範囲が少なくとも4区域ほどに分割していたことを物語っている。5世紀に入ると米沢盆地の支配権は、東の戸塚山古墳群と西側の下小松古墳群の二者に概ね統一されたものとみられる。

6世紀段階になると、南陽市から長井市、高畠町と小規模な古墳が広範囲に出現する。これらの古墳は、大和政権の弱体化につけ込んだ地方の豪族等が小規模支配層の拡大を測り、次々と跋扈していった様子を示すものであろう。

7世紀に入ると朝廷を中心とした律令国家が誕生する。大化の改新の直後に陸奥の国が置かれ、置賜地域は置賜郡衙として陸奥国の管轄に編入される。戸塚山古墳群を中心とした高畠地区から南陽市東北部（赤湯周辺）の3地区に限定して構築された横穴式を有する古墳群は、律令体制に参入した豪族や役職者等の墳墓と考えられる。これらを裏付けるように7・8世紀の官衙跡と推測される遺跡も前述した3地区に痕跡を残している。

3. 米沢市における古墳分布と主要古墳

米沢市内には、第11図で示すように、ほぼ米沢市街地の範囲に広がっている。現在までに確認された古墳としては、戸塚山古墳群の195基を筆頭に31個所の古墳及び古墳群、269基となる。第2表参照。

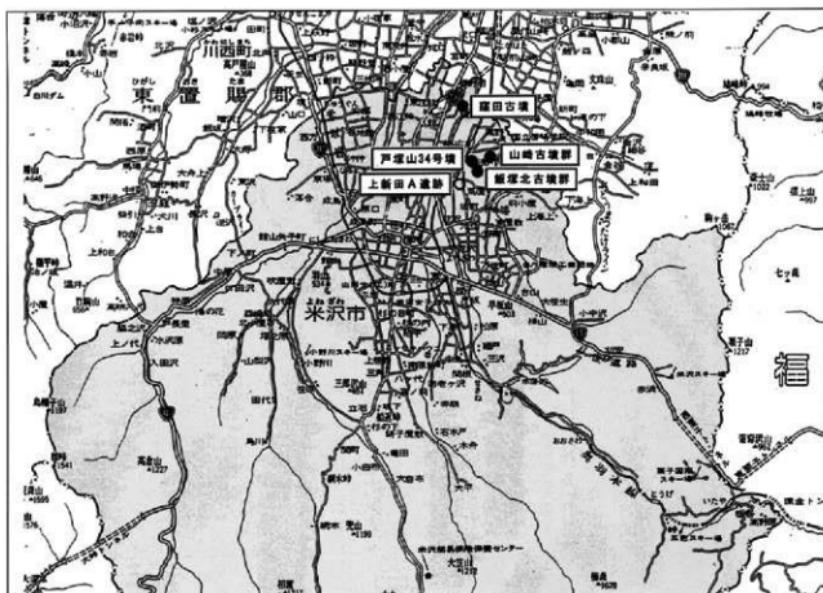
横山古墳の発見は、現時点での県内最古の古墳と位置づけられる。しかも、米沢盆地における古墳の発生や成立、それに大和政権の進出や影響に重要な意味をもつ。そこで、米沢市で確認されている主要古墳について紹介しておきたい。

①西方古墳群「大字下小菅字西方」

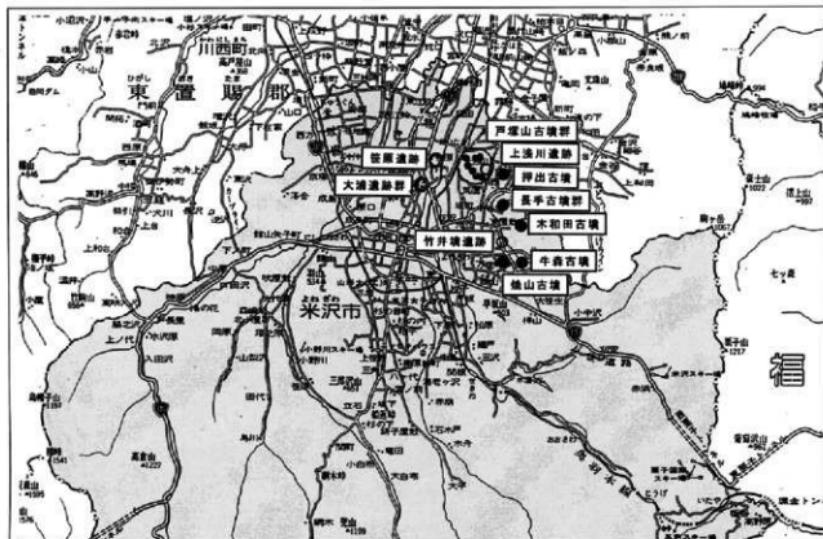
成島丘陵の東側中腹から山麓にかけてM1号墳～M4号墳の4基の方墳が分布する。正方形のプランを示し、所謂中世の「土墳」に類似していることより当初、中世の塚と考えていたが、ボーリング検査の結果、版築状況や立地、周溝の状況を加味したところ古墳の可能性が高いものと判断している。方墳は、M4号墳の20mを最大に15m前後を有するものが多く、1.5m～2.5mの周溝を伴うのが特徴である。確証はないが、概ね5世紀代の古墳群と推測している。

②成島古墳「広幡町成島」

標高327.2mの山頂から北側の尾根に沿って前方後円墳1基と方墳5基の6基の古墳群で構成されている。この中で、南端に位置するM1号墳は全長60m、後円部径が30mで高さが4.7m、前方部長30m、前方幅が20mを測り、前方部2段・後円部3段を構築する前方後円墳である。



後期古墳



終末期古墳

第12図 米沢市後期・終末期古墳分布図(2)

●古墳 ○集落跡

後円部の東墳麓には陪塚と推測される長軸13mの方墳M2号墳が存在する。

M3号墳～M6号墳は、M2号墳から西側に約70mほど離れた尾根に沿って分布しているもので、長方形プランを基本とした15m～23mの規模を有している。形態的には、横山古墳と類似していることを考慮して、4世紀代の中頃に遡る可能性も考えられる。

④三月在家古墳「広幡町成島字三月在家」

丘陵を削平して整形盛土した一辺28mの方墳である。南側と西側に周溝が確認される。土墳の可能性も指摘されていたが、版築が明瞭なことから古墳と考えている。

⑤雀平古墳「広幡町成島字雀平」

成島八幡神社境内の西側の平坦部に位置する約15mの円墳で、幅約2mの周溝が伴い単独で存在する。6世紀代の可能性を考えている。

⑥賓領塚古墳「窪田町窪田字北賓領」

平成元年に確認調査を実施している。前方部は既に圃場整備によって失われているが、トレンチ調査で周溝が確認されている。それによると3段構築を有する全長80mの前方後方墳と推測され、全面に葺石を伴っていることが判った。現長40m、幅47m、高さ5.4mを測る。成島古墳群の存在からき鬼面川を境にした東側一帯を支配下に置いた首長墓と推測される。後方部と前方部の比率が6:6を示すことから同じ川西町の天神森古墳の前方後方墳6:4.5よりは幾分先行して構築されたものとみられる。概ね4世紀の中葉頃と考えている。

⑦八幡塚古墳「窪田町窪田字八幡塚」

昭和63年にトレンチによる確認調査を実施している。全長27.6m、高さ3.26mの2段構築の円墳で不規則な周溝が全周している。西側には不自然な張り出しを有しているのが特徴である。周溝内からは、壺形土器・壺形土器を中心とした破片が出土しており、二夕侯A遺跡の土師器と類似していることから南小泉式に併行する5世紀後半の年代が妥当と考えている。

⑧窪田古墳「窪田町外ノ内」

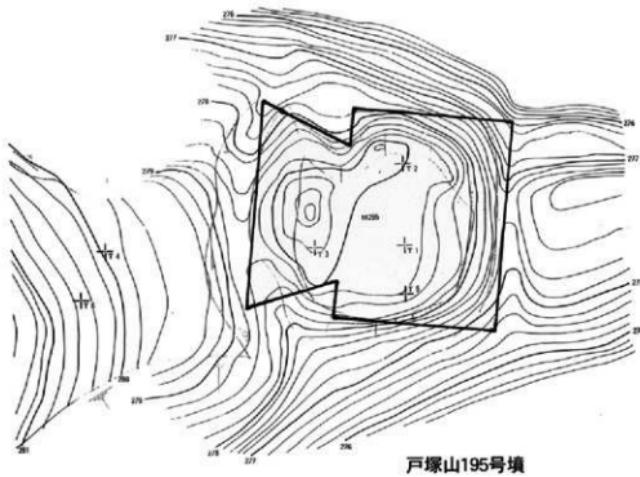
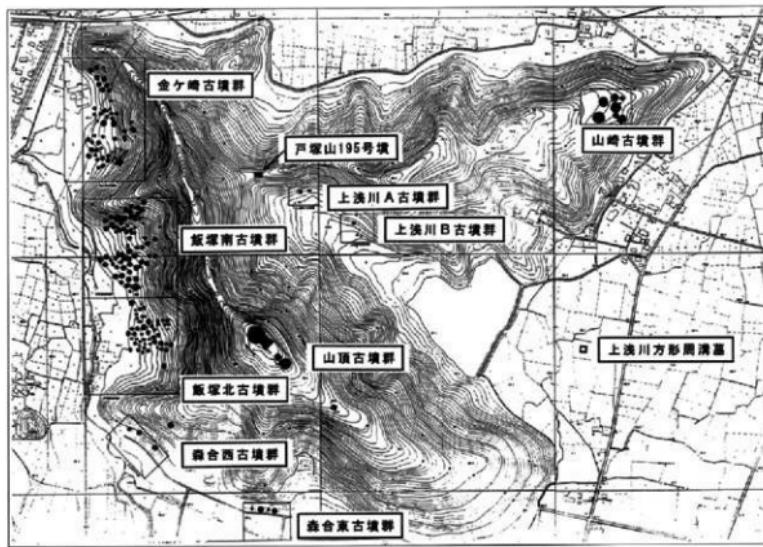
一辺16mを有する方墳で、市道によって西側の一部が失われてある。周囲の農地の影響等もあって、大半が埋没した現況となっており、現高で1.5mを測る。八幡塚古墳とは同じような5世紀後半頃に位置するものと考えている。

⑨戸塚山古墳群「大字浅川」

戸塚山は周囲約6km、標高356mの単独の丘陵で、山頂から山麓にかけた南斜面を利用して金ヶ崎古墳群45基、飯塚北古墳群74基、飯塚南古墳群49基、森合西古墳4基、森合東古墳群4基、山頂古墳群4基、上浅川A古墳群2基、上浅川B古墳群5基、山崎古墳群7基の9支群と尾根に単独に存在するM195号墳を加えた計195基の古墳が現存している。

また、終戦後に飯塚北古墳群と金ヶ崎古墳群の一部にブドウ園造成を行っており、その際に約20～30基位の古墳が破壊され、既に消滅している。このことを考慮すれば、少なくとも220基前後の古墳が存在したものと推定される。

これらの古墳群を形態的に分類すると横穴式石室を主体とした円墳が187基、方墳4基、帆立貝式古墳2基、前方後方墳1基、前方後円墳1基となる。



第13図 戸塚山古墳全体図

第1表 米沢盆地古墳編年表（試案）

・調査確認古墳

年	米 沢 周 边	川西町周辺	南 陽 市 周 辺
200			
300	<ul style="list-style-type: none"> ・□比丘尼平方形周溝墓 ・□大清水方形周溝墓 ・■横山2号 ・■横山1号 ・■寶領塚 ●成島2号 ■戸塚山195号 	<ul style="list-style-type: none"> ・■天神森 ・■雁境塚 	<ul style="list-style-type: none"> ■■●経塚山、龍樹山 ・■蒲生田3号、4号 ・■蒲生田2号 ・■稻荷森
400	<ul style="list-style-type: none"> ■成島1号 ■三月在家 ■戸塚山182号 ・●八幡塚 ■戸塚山140号 ■西方 ●戸塚山139号 ・●戸塚山137号 窪平 	<ul style="list-style-type: none"> ●下小松61号 ●下小松98号 ↓ ↓ ↓ 	<ul style="list-style-type: none"> ■■●経塚山、龍樹山 ↓ ↓ ↓
500	<ul style="list-style-type: none"> ●戸塚山138号 ●戸塚山181号 ■窪田 ■戸塚山34号 ●戸塚山180号 ●戸塚山178号 		<ul style="list-style-type: none"> ●松沢1、2号
600	<ul style="list-style-type: none"> ●戸塚山189号 ■戸塚山175号 ●戸塚山74号 ・●戸塚山43号 ●戸塚山59号 ●戸塚山群集墳 ↓ ↓ 	<ul style="list-style-type: none"> ●天神裏 ●長手2号 ●木和田 ●長手4号 	<ul style="list-style-type: none"> ●蒲生田1号 ●二色根1号 ●赤湯古墳群 ↓ ↓
700	↓	↓	↓

第2表 米沢市内の古墳一覧表

通跡No.	古墳名	所在地	數 量	形 態	時 代	a 縮 模・b 調査・c その他の
A-3	長手古墳群	大字長手城山	9基	円墳（横穴式古墳）	終末期古墳 (7世紀後半~8世紀初頭)	a 8~20m b 1983 1012~1017 c 1号・2号墳の2基は指定文化財
A-9	天神裏古墳	大字長手長峯山	1基	円墳（横穴式古墳）	終末期古墳	a 14m
A-17	上浅川a 遊跡	大字浅川字平江塙 2055番地他	1基	方形周溝墓	古墳中期 (5世紀中葉)	a m×m c 大運寺窓の須恵器壺1点出土
A-29	上浅川堤入b 古墳群	大字浅川堤入 2204番地他	5基	円墳（横穴式古墳）	終末期古墳 (7世紀後半~8世紀初頭)	a 8~12m b 1983 4027~4030 c 市指定文化財
A-32	金ヶ崎古墳群	大字浅川金ヶ崎	45基	円墳（横穴式古墳）44基 方墳（横穴式古墳）1基	終末期~後期古墳 (6世紀末~8世紀)	a 7~43m b 1983 4027~4030 c 市指定文化財
A-33	飯塚北古墳群	大字浅川字 坂塚247番地他	74基	円墳（横穴式古墳）	終末期~後期古墳 (6世紀末~8世紀)	a 5~20m b 1983 4011~4020 c 市指定文化財
A-34	飯塚南古墳群	大字浅川字飯塚 2151番地他 (15)	49基	円墳（横穴式古墳）	終末期~後期古墳 (6世紀末~8世紀)	a 5~20m b 1983 4011~4020 c 市指定文化財
A-35	森合東古墳群	大字浅川字千周	5基	円墳（横穴式古墳）	終末期古墳 (7世紀後半~8世紀初頭)	a 12~18m b 1983 4021~4026 c 市指定文化財
A-36	山頂古墳群	大字浅川奥入	4基	前方後円墳1基・帆立貝 式古墳2基・方墳1基	古墳中期~古墳後期 (5世紀後半~6世紀中葉)	a 前方後円墳（全長54m）・帆立貝式古墳（全長21~26m） 方墳（全長14m） b 1983 5010~6001 c 市指定文化財・人骨1体、龍角鏡2点1点、瓶葬3点出土
A-37	上浅川堤入 a 古墳群	大字浅川奥入	2基	円墳（横穴式古墳）	終末期古墳 (7世紀後半~8世紀初頭)	a 8~12m b 1983 4027~4030 c 市指定文化財
A-38	山崎古墳群	大字浅川平江塙	7基	円墳・方墳 (豎穴式古墳~横穴式古墳)	古墳中期~終末期古墳 (7世紀後半~8世紀初頭)	a 13~24m b 1983 4027~4030 c 市指定文化財
A-48	比丘尼平造跡	万世町牛森字比丘 尼平田40番地他	3基	方形周溝墓	古墳前期 (4世紀中葉)	a 6~12m b 1978 1027~1108
A-54	大清水遺跡	万世町牛森字 大清水	1基	方形周溝墓	古墳前期 (4世紀中葉)	a 5.6m b 1980 7028~1030
A-60	八幡堂	万世町牛森八幡 堂295番	5基	方形周溝墓	古墳中期 (5世紀前半)	a 5~11m b 1981 4001~6000
A-76	牛森古墳	万世町牛森字 清水北	1基	円墳（横穴式古墳）	終末期古墳 (8世紀末)	a 15m b 1975 5001~6007 c 市指定文化財・県内最大の横穴式古墳
A-215	木和田古墳	大字木和田字 月原756番地	1基	円墳（横穴式古墳）	終末期古墳 (7世紀後半~8世紀初頭)	a 15m b 1997 1020~1105 c 県内最大の横穴式古墳
J-306	八幡堀古墳	蘆田町蘆田字 八幡堀2934番地	1基	円墳	古墳中期 (5世紀中葉)	a 27m b 1988 6004~7022 c 強出のある円墳
A-309	牛森山古墳	万世町牛森	2基	円墳（横穴式古墳）	終末期古墳 (7世紀後半~8世紀初頭)	a 8~11m
J-317	寅領塚古墳	蘆田町猿田字北宝 鏡883-1番地他	1基	前方後円墳	古墳前期 (4世紀中葉)	a 80m b 1989 4003~4028 c 3段構成、全面葺石、周溝有
A-320	秦御山古墳	大字上新田字森合	7基	円墳（横穴式古墳）	終来期古墳 (7世紀後半~8世紀初頭)	a 6~11m
A-321	鬼太社古墳群	大字上新田字森合	6基	円墳（横穴式古墳）	終来期古墳 (7世紀後半~8世紀初頭)	a 5~12m
A-322	西光寺古墳群	大字上新田字森合	7基	円墳（横穴式古墳）	終来期古墳 (7世紀後半~8世紀初頭)	a 6~10m
A-327	森合西古墳群	大字上新田字森合 (5)	3基	円墳（横穴式古墳）	終末期古墳 (7世紀後半~8世紀初頭)	a 12~16m
A-337	堂田古墳群	大字上新田字森合 (21)	1基	円墳（横穴式古墳）	終末期古墳 (7世紀後半~8世紀初頭)	c 消滅
J-401	蘆田古墳	蘆田町蘆田字 外の内	1基	方墳	後圓古墳 (6世紀)	a 16m
J-402	成島古墳群	広輔町成島字 御殿堂	6基	前方後円墳1基 方墳5基	古墳前期~古墳中期 (4世紀末~5世紀末)	a 斧形後円墳（全長60m）・方墳（全長10~17m）
J-641	蘆平古墳	広輔街成島	1基	円墳	古墳後期 (6世紀)	a 15m
A-264	横山古墳	大字竹井字横山	2基	方墳	古墳前期 (5世紀)	a 13.5m b 1999 7001~7000 c 墓球3基・土師器壺1点、高杯1点、器台3点・管玉1点
I-392	西方古墳群	大字下小菅字西方	4基	方墳	古墳中期 (5世紀)	a 15~20m
I-296	三月在家古墳	広輔町成島字 三月在家	1基	方墳	古墳中期 (5世紀)	a 28m
A-670	戸塚山195号墳	大字浅川堤入	1基	前方後円墳	古墳前期 (4世紀)	a 前方後円墳（全長15m）

この中で注目される古墳としては、全長54mの前方後円墳M139墳（5世紀後半）、主軸長24mと15mの帆立貝式古墳M137号墳・M138号墳（5世紀後半～6世紀初頭）、それに15mの方墳M140号墳（4世紀末～5世紀初頭）が山頂にかけて分布する。さらに、山崎古墳群は10m～24m円墳7基で構成するもので、5世紀初頭から6世紀にかけた古墳群と推測している。山頂から山崎古墳群にかけた尾根の中心部には15mの小型の前方後円墳1基が単独で存在し、戸塚山古墳群の中では最古（4世紀末）の古墳と考えられる。

古墳が集中する金ヶ崎・飯塚南・飯塚北古墳群の中腹にかけた範囲には大型の円墳が分布しており、6世紀代から7・8世紀にかけて継続的に構築された群集墳とみられる。

戸塚山古墳は4世紀末頃から古墳の築造が開始され、5世紀代に首長墓が成立する。6世紀代に入ると階層拠点となる古墳が中腹に出現し、7・8世紀の終末期の段階で爆発的に古墳が築造された特異な長期継続型の古墳群である。

⑨押出古墳（天神裏古墳）「大字長手字長峰山」

長峰山の北端山麓に単独で存在する横穴式石室を有する山寄式の円墳で、既に盗掘を受けている。玄室は東南側に開口するもので、天井石や側壁、羨道の大半が失われている。現存する石室から想定される主体部としては、玄室幅1.7m、玄室長が2.5m、羨道幅1m、羨道長2.5mの全長5m前後を示すものと推測される。

内部からは直刀の鉗2点と鉄鎌数点が認められているが、時期を決定するような遺物は認められていない。平面形態が細長い樽状を示すことや玄室の石材に凝灰岩の割石を多様している特徴から7世紀の前半頃に位置するものとみられる。

⑩薬師山古墳群「大字森合字薬師山」

戸塚山の南側に存在する平地から約20mの高さの単独丘陵で、5m～8m前後を有する小規模な古墳が山麓に15基確認されている。

⑪西光寺古墳群「大字上新田字森合山」

標高292mを有する単独丘陵の森合山東山麓に10m～15mの山寄式の円墳5基が確認されており、7・8世紀代の終末期古墳とみられている。

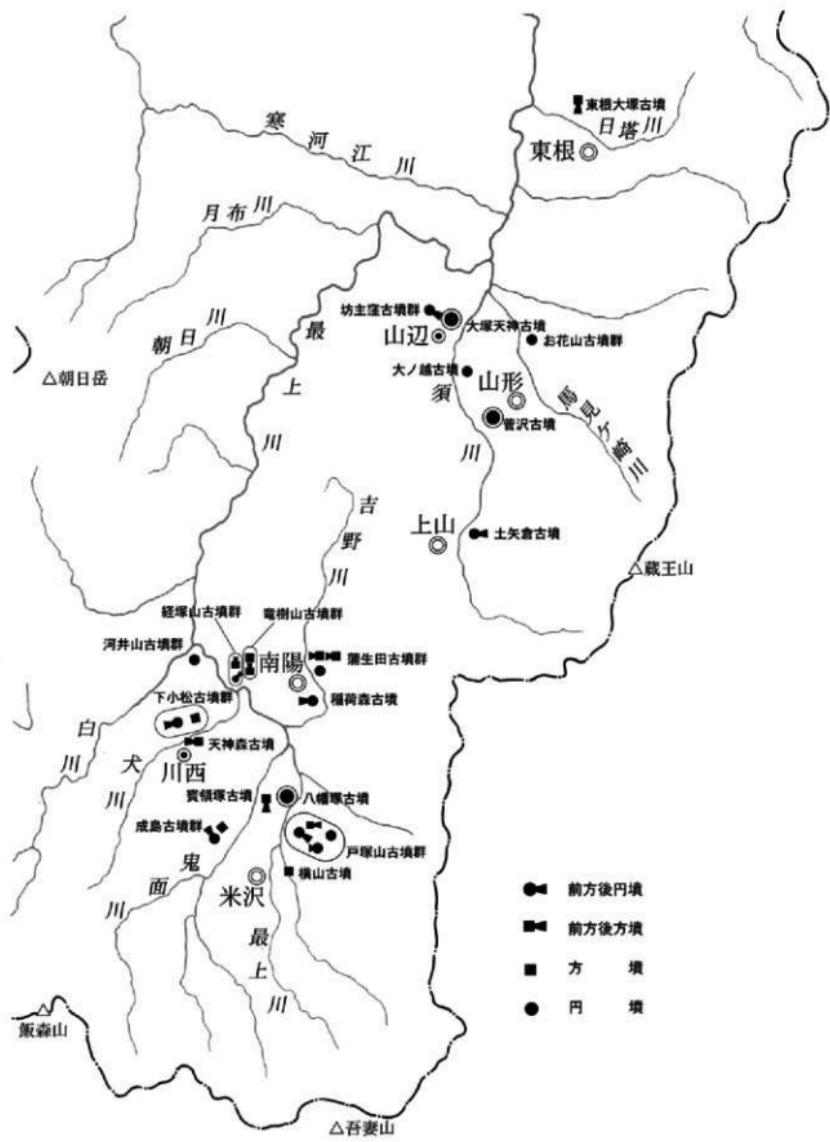
⑫皇大神社古墳群「大字上新田」

森合山の南山麓に分布するもので、5m～6mの小規模円墳が3基確認されている。8世紀代の終末期古墳と考えている。

⑬長手古墳群「大字長手字城山」

城山の南山麓に第1号墳～第5号墳からなる5基の円墳が分布している。このなかで、第2号墳と第4号墳の調査を実施している。前者の2号墳は、12mの円墳で全長5mの横穴式石室をもつ。後者の4号墳は、中世の段階で天井石を撤去して埋め戻され、中世墳墓に利用されている。主体部は比較的明瞭になっており、玄室の長さが2.5m、幅1.8m、羨道の長さ2.26m、幅1.5mで全長が5.15mを測る。遺物は、前庭部より追葬したものと推測される8世紀前半の土師器杯4点、須恵器高台杯3点と骨蔵に転用した古瀬戸瓶子1点が検出している。

⑭木和田古墳「大字木和田字月ノ原」



第14図 山形県の前期・中期古墳分布図

ブドウ園造成によって昭和26年に発見され、その際に調査を柏倉氏が実施している。平成9年に確認調査を実施したが、玄室を除く大半が失われている。玄室は凝灰石の切石を利用して構築したもので、玄室長が3.5m、幅1.6m、現長1.5mを測るもので、現在確認されている置賜地方の横穴式石室では最大規模をなす。7世紀中葉期の終末期古墳と考えている。

確認された周溝からの推測される規模は東西12.9m、南北15.8mと想定された。

⑩横山古墳「大字上竹井字横山」

木和田地区の南西側に張り出した標高275m丘陵の尾根に存在する古墳で約13mの方墳である。平成11年の調査で古墳と判明したもので、木棺直葬と考えられる墓壙3基が東西方向に検出されている。古墳のほぼ中央に配置されてある2号・3号の墓壙は地山を掘り込んだ約4m、幅1.25m前後を有するものであるが、北端で確認された長軸4.7m、幅1.1mの1号墓壙は盛土上面から掘り込まれているので、後の段階で埋葬されたものと判断された。断面からの観察から木棺の幅としては、約60cm前後であったものとみられる。

遺物は、2号・3号の盛土上部より土師器器台4点と埴1点が設置された状況で出土している。主体部からは2号墓壙に管玉1点が認められた以外は検出されなかった。古墳の年代としては、土師器の特徴より4世紀中葉と考えられ、当地方の発生期段階の古墳として注目される。

⑪焼山古墳「万世町牛森字焼山」

標高306mの焼山東山麓に存在する古墳で、約15m、高さ3mを有する山寄式の円墳である。

⑫牛森古墳「万世町牛森字前川原」

昭和50年に発掘調査を実施した古墳で、約8mの円墳と想定される。主体部は、奥壁一部と玄門に凝灰岩を用いた以外は、河原石を積み上げて構築しており、玄室と羨道が「T」字形を有する特異なものであった。玄室長が3m、幅1mに長さ3m、幅1.25mの羨道をもつ。

遺物としては、鈴帶金具7点と須恵器蓋1点が検出されており、8世紀中葉頃の年代を考えている。

4. 要 約

今回の横山古墳の発見は、米沢盆地の古墳の成立が4世紀中葉期に遡るもので、大和政権の影響が予想以上に早い段階で当地区に及んでいたことを示している。4世紀中葉の時期は、北関東地域の古墳進出とほぼ同時期となるものである。また、前述しているように米沢盆地には4世紀後半段階で、賓領塚古墳などの大型首長墓が4個所存在している。これらの大型古墳と同じ時期には、蒲生田古墳群や雁境塚古墳等の小規模な前期古墳も最近になって発見されている。こうした古墳は、大型古墳と同一基軸の中で出現したと思われていた。

しかし、これらの首長墓に先行する時期の小規模古墳が確認されたことは、大型古墳が成立する以前に小規模な地域を治めていた長的指導者の存在を具体的に示したものといえる。

その後、大和朝廷による同盟・服属対策の急速な浸透と影響は、地域の自衛権行使するために地域の小規模集団を統一する地域国家を成立させた。その最も優位に立った指導者の存在が天神森古墳・稻荷森古墳・成島2号墳の首長墓である。

今後は、同様な小規模古墳の調査と大型古墳の関連性を究明し、より具体的に米沢盆地における古墳文化が成立したかを究明してゆきたい。

参考文献

- 1 西村真二 1938 「置賜盆地の古代文化」『東置賜郡史』(上巻)
- 2 柏倉亮吉 1953 「山形県の古墳」『山形県文化財調査報告書 第4集』山形県教育委員会
- 3 川崎利夫 1964 「辺境における古墳文化の特質」『日本考古学の諸課題』
- 4 柏倉亮吉・武田好吉・小野忍 1969 「土矢倉古墳群発掘調査」上山市教育委員会
- 5 伊東信雄・伊藤玄三 「会津大塚山古墳」『会津若松市 別巻1』会津若松市
- 6 加藤 稔 1973 「最上川流域における古墳文化の展開」『最上川流域の歴史と文化』工藤定雄教授還暦記念論文集
- 7 柏倉亮吉他 1976 「牛森古墳」『米沢市八幡原工業団地造成予定地内埋蔵文化財調査報告書第2集』
米沢市教育委員会
- 8 川崎利夫 1977 「出羽地域における古墳の成立」『考古学研究第24巻2号』考古学研究会
- 9 伊藤鎮雄・保角里志 1979 「福井森古墳」『昭和53年度調査概報』山形県立博物館
- 10 佐藤鎮雄 1982 「置賜地方の古墳—南陽市周辺の古墳をみる中心としてー」『まんぎり創刊号』まんぎり会
- 11 手塚孝・菊地政信 1983 「八幡山遺跡発掘調査報告書」『米沢市埋蔵文化財報告書 第8集』米沢市教育委員会
- 12 加藤稔・手塚孝 1983 「戸塚山137号墳」『米沢市埋蔵文化財調査報告書 第9集』米沢市教育委員会
- 13 藤田宥宣他 1984 「分布調査報告書」『川西町埋蔵文化財調査報告書 第7集』川西町教育委員会
- 14 川崎利夫 1985 「最上川流域における古墳文化の生成と展開」『流域の地方史』
- 15 手塚 孝 1985 「米沢の古代文化」まんぎり会
- 16 加藤稔・藤田宥宣 1986 「天神森古墳発掘調査報告書」『川西町埋蔵文化財調査報告書 第9集』川西町教育委員会
- 17 手塚孝・菊地政信 1986 「大清水遺跡発掘調査報告書」『米沢市埋蔵文化財調査報告書 第17集』米沢市教育委員会
- 18 藤田宥宣他 1986 「下小松墳丘群小森山支群 第61-64号墳調査報告書」『川西町埋蔵文化財調査報告書 第10集』
川西町教育委員会
- 19 藤田宥宣他 1986 「下小松墳丘群鹿待寺支群 第105-106-186号墳調査報告書」『川西町埋蔵文化財調査報告書 第11集』
川西町教育委員会
- 20 加藤稔他 1987 「菅沢2号墳の発掘調査」山形市教育委員会
- 21 手塚 孝 1988 「比丘尼平遺跡発掘調査報告書」『米沢市埋蔵文化財調査報告書 第21集』米沢市教育委員会
- 22 川崎利夫 1988 「山形南半における終末期古墳の様相」『山形考古 第4巻第2号』山形考古会
- 23 藤田宥宣他 1988 「下小松墳丘群葉篠寺支群 第143-145号墳調査報告書」『川西町埋蔵文化財調査報告書 第12集』
川西町教育委員会
- 24 手塚 孝 1989 <八幡塚古墳の発掘調査>「遺跡詳細分布調査報告書 第2集」
「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第25集」米沢市教育委員会
- 25 手塚孝他 1989 「戸塚山古墳群詳細分布調査報告書」『米沢市埋蔵文化財調査報告書 第10集』米沢市教育委員会
- 26 藤田宥宣他 1986 「下小松墳丘群小森山支群 第65号前方後円墳調査報告書」
「川西町埋蔵文化財調査報告書 第13集」川西町教育委員会
- 27 吉野一郎・茨城光裕 1989 「福井森古墳発掘調査報告書」『南陽市埋蔵文化財調査報告書 第4集』南陽市教育委員会
- 28 加藤稔他 1989 「菅沢2号墳発掘調査報告書」山形市教育委員会
- 29 加藤稔他 1989 「坊主塙1号墳子母調査報告書」『山辺町埋蔵文化財調査報告書2』山辺町教育委員会
- 30 手塚 孝 1990 <賣猿塚古墳の発掘調査>「遺跡詳細分布調査報告書 第3集」
「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第27集」米沢市教育委員会
- 31 国学院大学 1990 「河井山遺跡群学术調査報告書」国学院大学考古学資料館
- 32 国学院大学 1990 「河井山遺跡群第1号墳学术調査報告書」『国学院大学考古学資料館紀要6』河井山遺跡学术調査团
- 33 手塚孝他 1991 「賣猿塚古墳の発掘調査報告書」『米沢市埋蔵文化財調査報告書 第31集』米沢市教育委員会
- 34 手塚 孝 1992 <成島古墳群の発掘調査>「遺跡分布調査報告書 第5集」
「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第32集」米沢市教育委員会

- 35 加藤 稔 1994 「地方の概要 出羽 前方後円墳集成」東北関東編
- 36 吉田博行 1995 「杵ヶ森古墳発掘調査報告書」「会津坂下町文化財調査報告書第33集」会津坂下町教育委員会
- 37 高橋千晶 1995 「置賜地方の切石石室－石室構造の觀点から－」「山形考古第5巻3号」山形考古学会
- 38 茨城光裕 1997 「大堀天神古墳第1次調査」「山辺町埋蔵文化財調査報告書2」山辺町教育委員会
- 39 手塚孝・菊地政信 1998 <木和田古墳の発掘調査>「遺跡詳細分布調査報告書 第11集」「米沢市文化財調査報告書 第61集」米沢市教育委員会
- 40 井田秀和他 1998 「安久津古墳群の発掘調査」「高畠町埋蔵文化財調査報告書 第6集」高畠町教育委員会
- 41 手塚孝・菊地政信 1999 <天神裏・長手古墳群の発掘調査>「遺跡詳細分布調査報告書 第12集」「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第65集」米沢市教育委員会
- 42 茨城光裕 1999 「大堀天神古墳第2次調査概報」「山辺町埋蔵文化財調査報告書2」山辺町教育委員会

報告書抄録

ふりがな	いせきしううさいぶんぶちょうさはうこくしょ
書名	遺跡詳細分布調査報告書
副書名	横山古墳
卷次	別冊
シリーズ名	米沢市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第72集
編著者名	手塚 孝・菊地政信
編集機関	米沢市教育委員会
所在地	〒992-0012 山形県米沢市金池三丁目1-55号 TEL(0238)22-5111
発行年月日	平成12年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査機関	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
よこやまこふん 横山古墳	やまとがたけんよねざわし 山形県米沢市 よこやまらない 横山地内	6202	米沢市 遺跡番号 A-264	37度 54分 47秒	140度 9分 47秒	19990701 l 19990730	66m ²	確認調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
横山古墳	方墳	古墳時代	墳墓3基	土師器壇・土師器器台・土師器高壙・管玉	4世紀中葉の方墳で、県内最古の古墳とされる。





▲ 墳丘全景（南方から）



▲ 調査風景（南方から）



▲ OY1セクションベルト取りはずし状況（南方から）



▲ OY3・OY2セクションベルト取りはずし状況



▲ OY2・3セクションベルト取りはずし状況（北方から）



▲ OY2・3セクションベルト取りはずし状況



▲ OY2・3完掘状況（西南から）



▲ 古式土器出土状況

図版2



▲E トレンチを北方からの全景



▲G トレンチを北方からの全景



▲B トレンチ検出の周溝を西方からの近景



▲H トレンチを南方からの近景



▲I トレンチを南方からの全景



▲J トレンチを北方からの全景



▲A トレンチ盛土状況（東方から）



▲L トレンチを西方からの遠景



▲東方から OY2・3全景



▲南方からの調査風景



▲南方から OY2・3全景



▲南方からの調査風景



▲OY2・3セクションベルト取りはずし状況(東方から)



▲OY2・3セクションベルト取りはずし状況(西方から)



▲右から OY2、OY3（西方から）



▲OY2上部出土状況

図版4



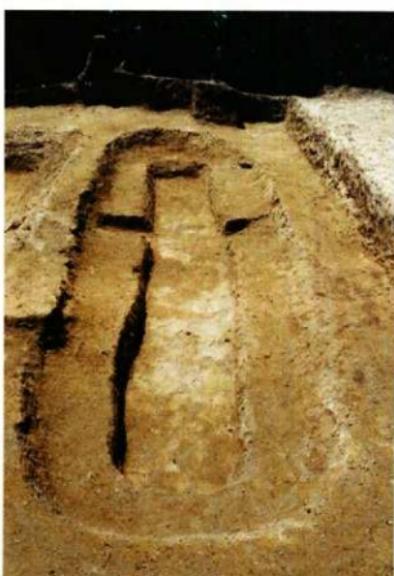
▲ OY1セクションベルト取りはずし状況（西方から）



▲ OY3近景（東方から）



▲ OY3近景（西方から）



▲ OY2近景（西方から）

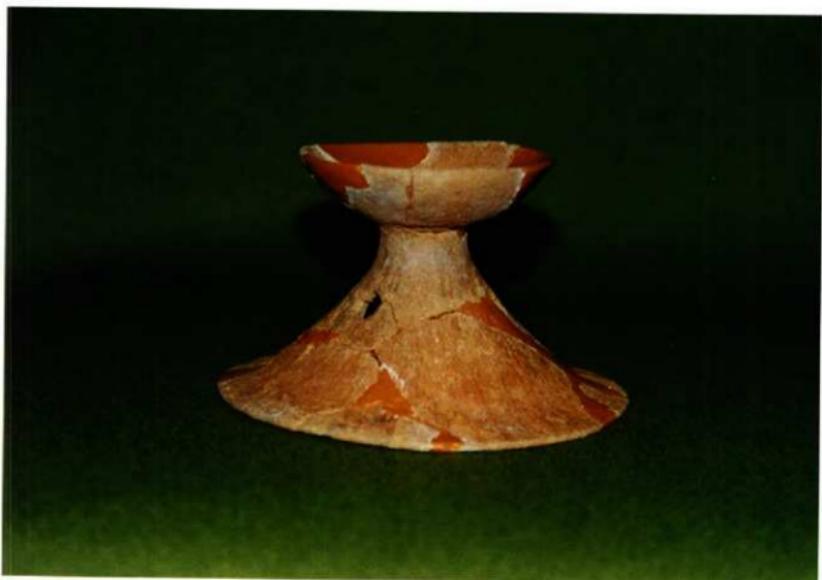


▲横山古墳出土古式土師器



▲2号墓塚出土の管玉と填丘盛土出土の絵文土器

図版6



▲器台



▲器台



▲高环



▲器台

米沢市埋蔵文化財調査報告書 第72集
横山古墳発掘調査報告書

平成12年3月20日 印刷
平成12年3月31日 発行

発 行 米沢市教育委員会
米沢市金池三丁目1-55
TEL (0238) 22-5111
(内線 7502)

印 刷 株式会社ケムシー
米沢市通町八丁目2-43
TEL (0238) 26-2212
FAX (0238) 23-1408